

アジア通の関心は中国に

「知日派」——この言

葉から連想されるアメリカの政府機関や国際機関で活躍する米国人は誰である。アーミテージ前

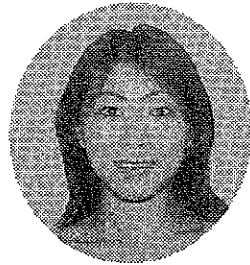
無に近い。1990年代の日本のバブル経済崩壊をきっかけに、次世代を担うアジア通の米国人の多くは悲しいことに日本ではなく中国に目を向けている。米国人の日本離れを食い止めようと、今年

「次世代の知日派」を育成するNPO「センター・フォー・プロフェッショナル・エクスチェンジ」(CEPEX) (多田幸雄理事(長)をアメリカの首都ワシントンD.C.に立ち上げた。

CEPEXの設立は専門的職業に結びつく形で教育研修の人材交流のサポートをする「国際ハ

CEPEX  
広報担当理事

松山 幸子



まつやま・さちこ 東京都出身。東京女学館短大卒、米アメリカン大学大学院修士課程修了。「サロン de さちこ」主宰。CEPEX広報担当理事。ワシントン在住。

ローワーク」的な役割を担うことを目的としている。もちろん最大の目標は、近い将来、アメリカの重要ポストで活躍する「知日派」の米国人を育てることである。

将来を見越して

今まで日本の様々な官庁や民間団体が同様の国際交流プログラムを企画

### 文化

きたが、それらの多くは米国人を含む外国人を日本に呼び寄せて、勉強や研修を積ませるといふもので、数年後には彼らは母国に帰国。その後のサポートは十分に行

## 米国の「若い知日派」育成を

われてこなかったのが実情だ。つまり研修後、日本通の仲間入りを果たしたはずの外国人の多くは「日本に住んでいた。日本語も少しなら分かる」といったレベルに収まり、最終的には日本とは全く無縁の職業に就いていることが少なくないのだ。

その問題を解決すべく立ち上げられたCEPEXは日米政府、民間、

### 官・民・学の協力を得て 教育、研修、就職の機会提供

学校法人の協力を得て、「官・民・学・NPO」の4者が一体となり、真の知日派育成のための、従来より一歩進んだハイレベルな教育、研修、就職の機会を「知日派予備軍」に提供するものだ。

先月、その「次世代の知日派」育成を目標とする、国際交流教育支援事業のパイロットプログラムとして、CEPEXは帝京大学と共同でフェローシップを企画し募集を

行った。具体的な内容は、留学や招致などで、これまでに在日経験のある米国人を対象に来年4月より帝京大学の大学院修士または博士課程に全学費・生活費・保険料免除で在籍する権利を与える。それと同時に、彼らに将来有益な職務経験を積んでもらうために、帝京大学グループ校で英語教育のアシスタントとして働く機会も提供する。つま

り米国人に日本の高等教育機関の修士号や博士号を取得させ、さらに日本人を相手に仕事のスキルを身につけてもらうのだ。

広がる人材受け入れの場  
同様のフェローシップは関東・中部・関西の大都市にある他のいくつかの大学とも現在計画中であり、来年9月からの人材の正式受け入れを目指している。フェローシッ

プの応募及び選考には在ワシントン日本大使館、在日アメリカ大使館も積極的に協力。またフェローシップ修了者の就職支援などのフォローアップとして政府や民間の多くの機関もCEPEXに将来的に協力する意向を示している。

一方で逆に日本人の学生を対象にした「次世代リーダー」育成プログラム「も検討中である。CEPEXの置かれたワシントンD.C.の人脈・立地条件を利用して、将来が期待される日本人学生に国際機関やシンクタンクなどでインターンシップとして働くポストを用意し、日米両国の双方の国際交流を目指していく。

フェローシップ修了米国人が社会人として巣立っていくのは3、4年後。10年後の2015年、世界の政治の中心地、ワシントンから国際社会をリードする「知日派」の米国人が数多く誕生していることだろう。